

通し番号	4 4 8 2
------	---------

分類番号	22-1B-12-01
------	-------------

(成果情報名) 大豆「津久井在来」標準的な栽培特性	
[要約] 大豆「津久井在来」の標準的な特性を明らかにするため、県内の主要な大豆産地より系統を収集し、栽培特性の調査及びDNAマーカー多型比較を行った。その結果、相模原系統が過去に報告されている「津久井在来」の特性と一致し、形質が遺伝的に安定していることを確認した。これらの結果を基に関係機関と協議し、相模原系統が津久井在来の標準系統として選定された。	
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター 野菜作物研究部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

本県における大豆栽培は在来種「津久井在来」を中心に行われている。「津久井在来」は過去に優良系統の選抜が行われているが、期間が経るなかで栽培地域によって子実形質などの特性に違いが生じて来ている。そこで、県内の主要な産地である相模原市、平塚市、秦野市より収集した系統について、栽培特性やDNAマーカーによる多型を比較し、標準的な「津久井在来」の特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 相模原系統は主茎が他2系統より短い。上子実重は秦野系統と同等で、平塚系統より優れる。子実の百粒重はやや大きい(表1)。子実の臍色は褐色で、一部に淡褐の子実が見られる(表2、図1)。
- 2 平塚系統は相模原系統に似るが、主茎長はやや長い。子実重はやや劣り、百粒重は相模原系統よりやや小さい(表1)。子実の臍色は白～淡褐が多い(表2、図1)。
- 3 秦野系統は主茎が顕著に長く、開花期、熟期は遅い。子実重は相模原系統と同程度、百粒重はやや小さい(表1)。子実の臍色は淡褐の個体が半数程度見られる(表2、図1)。
- 4 過去に報告されている「津久井在来」の特性は、葉の形は卵型、花色は紫、子実の臍色は褐～淡褐であり、相模原系統の特性と一致する(表2)。
- 5 相模原系統と秦野系統のSSRマーカー(Satt184：平成19年度成果情報「SSRマーカーによる「津久井在来」の判別」参照)による多型解析により、相模原系統は津久井在来の標準的なタイプであると判断され、遺伝的に安定している(図2)。

[成果の活用面・留意点]

「津久井在来」標準系統の種子供給体制について、検討が進められている。

[具体的データ]

表1 各系統の栽培特性(平成22年)

播種期	系統名	開花期 (月.日)	熟期 (月.日)	主茎長 (cm)	上子実重 (kg/a)	百粒重 (g)
7.1	平塚	8.11	11.2	53.3	32.7	31.3
	相模原	8.12	11.2	51.3	38.9	32.8
	秦野	8.14	11.10	71.9	38.7	31.3
	参)エンレイ	8.8	11.5	43.0	18.8	32.8
7.14	平塚	8.23	-	36.5	34.2	38.1
	相模原	8.23	-	35.7	36.9	40.6
	秦野	8.26	-	48.0	38.3	35.2
-	津久井在来 (昭和53~56年)	8.18	11.1	57.5	34.8	31.6

- : 調査未実施

表2 各系統の特性

系統名	葉の形	花色	子実		
			形	種皮色	臍色
平塚	卵形 (鋭先卵形)	紫	偏球	黄白	淡褐 (白・褐)
相模原	卵形	紫	偏球	黄白	褐 (淡褐)
秦野	鋭先卵形	紫	偏球	黄白	淡褐 (褐)
参)エンレイ	鋭先卵形	紫	偏球	黄白	黄 褐
津久井在来 (昭和53~56年)	卵形	紫	偏球	黄白	淡褐

一部の個体のみに見られた形質は括弧内に付記

表1及び表2の津久井在来の栽培特性は「大豆「津久井在来」に関する試験成績書」(昭和57年6月発行)より引用



図1 供試系統の子実外観(上段:相模原、中段:平塚、下段:秦野)

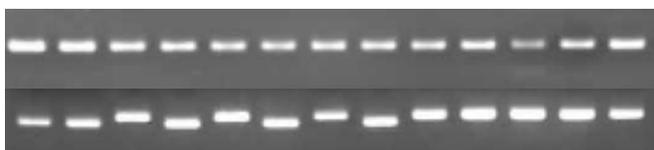


図2 供試系統のSatt184による解析(上段:相模原、下段:平塚)

- [資料名] 平成22年度試験研究成績書(野菜、作物)
 [研究課題名] 大豆「津久井在来」における標準系統の選定
 [研究期間] 平成18~22年度
 [研究者担当名] 三好理、久保深雪、野村研